

第3回中標津まちづくり交流広場 に参加しました

昨年11月23日、中標津町総合文化会館「しるべつと」において、まちづくりに取り組んでいる様々な団体が一同に集い、お互いの活動を発表し交流を深めあう「中標津まちづくり交流広場」が開催されました。

「都市マス策定事務局」も当日参加した団体31団体の1つに加えていただき、都市マスブースを設け、「都市マス」の紹介をさせていただきました。



「都市マス」ブースでは、フォーラムで議論いただいた「これからの10年・20年、大切にしたいまちづくりのテーマ」について、アンケート調査を行い、「私も重要と思う、共感する」というものを5つ選んでいただきました。

アンケートの結果は右のとおりです。

アンケートにご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



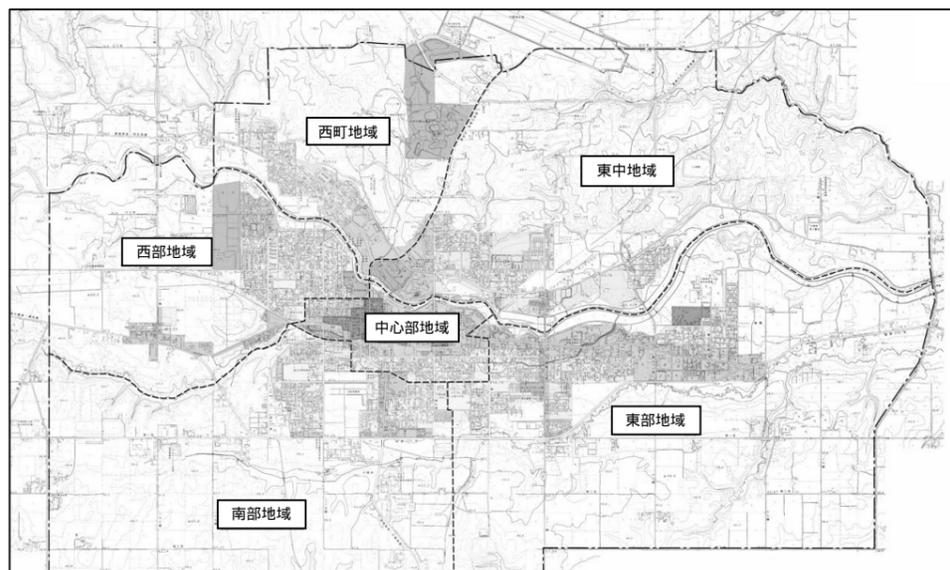
今後の予定～4月以降からは地域別構想の検討が始まります～

地域別ワークショップを開催します

地域の皆さんの意見を反映した地域別構想を策定するため、地域別話し合いの場（ワークショップ）を設けます。

開催案内につきましては、改めてご連絡致します。

- お問い合わせ -
建設課街づくり推進係
Tel 73-3111(内線 353)



環境首都なかしべつ ～都市マス通信～

2010.3
第2号



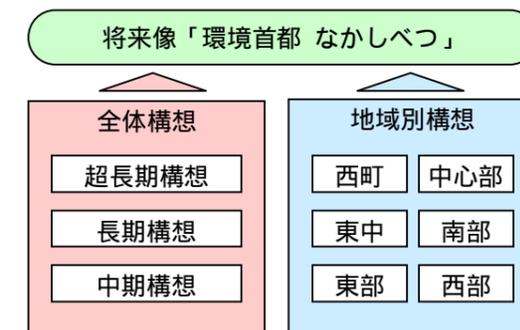
【発行】 都市計画マスタープラン策定事務局
(中標津町建設水道部 建設課街づくり推進係)

全体構想の検討が進められています

中標津町都市計画マスタープラン策定委員会及び庁内推進会議において都市マスの「全体構想」の見直し、検討を行っています。

都市マスは「全体構想」と「地域別構想」により構成され、さらに全体構想は、将来像を実現する千年単位の「超長期構想」、百年単位の「長期構想」、数十年単位の「中期構想」の時間の流れを軸とした3段階からなる構想に分かれています。

今回の見直しでは今後数十年のまちづくりをいかに行うかといった中期構想の部分の議論を中心に行っています。



4月以降からは、「地域別構想」の検討に入ります。(裏面参照)

	策定委員会・庁内推進会議	調整事項等
11月	第1回策定委員会 第5回庁内推進会議	フォーラム
12月	第2回策定委員会	都市マス通信
1月	第6回庁内推進会議	
2月	第7回庁内推進会議	
3月	第3回策定委員会	都市マス通信 都市計画審議会

「環境首都 なかしべつ」とは？

中標津町の都市づくりの将来像です。
自然や歴史といった環境を大切にしながら、
・広く様々な人々との“交流を楽しむ”
・自然や農業との“共生を重んじ”
・自由と責任を意識した“自律を追求し”
・人間を中心に据えた都市を実現するための将来の都市像
を「環境首都 なかしべつ」として掲げています。

『全体都市づくり構想』の検討概要

～ 「第5回庁内推進会議」「第2回策定委員会」での検討概要 ～

昨年の11月27日に第5回庁内推進会議が、12月17日に第2回策定委員会が開催され、まちづくりフォーラムのワークショップの意見をもとに、全体都市づくり構想の検討を行いました。

将来像、超長期構想、長期構想については、平成12年度策定当時の想いを引き継ぎ、より町民が分かりやすいよう表現に工夫を凝らすこととし、内容自体はそのまま踏襲することで確認されました。

前計画（平成12年度策定）の想いを引き継ぐ超長期・長期構想

超長期構想...千年先の超長期に渡り、守り伝えていく環境を都市の骨格としようとする構想

- ・次世代の子どもたちに伝えていきたいもの（“自然環境”と“歴史環境”）をまちづくりの土台としていこうという思いが詰められた構想です。



長期構想...百年の長いスパンをかけて実現していこうとする都市の構造を示す構想

- ・今すぐには無理でも、中標津で豊かに暮らしていくために“交流・共生・自律”をテーマとした都市の構造をつくり、夢や希望を実現しようとする都市づくりの構想です。



中期構想については、現在策定中の第6期総合発展計画と連動し、これからの10年、地域の身近な問題を解決し、将来像を実現する5つのまちづくりのテーマが示されました。

身近な地域の問題を解決する中期構想（案）

中期構想...総合計画と連動して中期的期間の中で実効性の高い施策から取り組んでいこうとする構想

- ・身近な地域の問題を解決し、生活実感に基づいたテーマで構築し、行政と住民のパートナーシップで都市を整備していこうとする構想です。

1. 共助・協働によるふれあい、交流のあるまちづくり（案）

解決課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者が安心して暮らせるまち ・若者が楽しみ、夢の持てるまち ・ふれあい、交流のある ・街中の賑わい再生、市街地の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを安心して育てられるまち ・スポーツのまち ・行事、イベント、祭りの充実 ・協働・共創のまちづくり
------	--	--

2. 安全・安心のまちづくり（案）

解決課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者が安心して暮らせるまち ・安全・安心な生活環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを安心して育てられるまち
------	--	--

3. 連携・創造の活力あるまちづくり（案）

解決課題	<ul style="list-style-type: none"> ・“食”の美味しいまち ・地方としての魅力を活かす ・交通の利便、立地特性を活かしたまち ・若者が楽しみ、夢の持てるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・街中の賑わい再生、市街地の活性化 ・地場産業の元気なまち ・地域の資源を活かした観光 ・広域連携によるまちづくり
------	---	--

第2回策定委員会で出された主な意見



中標津は、緑被率が高く緑の多い町。緑という要素を盛り込んで欲しい。町花であるエゾリンドウの群生地を多くすると一層自律と共生が増す町になるのではないかと。建物の色を統一するなど農家と街のなか両方で考えて行ければと思う。グリーンツーリズムなどの環境を活かした滞在型観光を考えられないか。中標津は、360°周辺の町に観光の出来る観光案内拠点となる町である。中標津の特色として何が他の町と違うのかを踏まえることが必要かと思う。

子どもたちが見ても伝わるような都市マスの成果としたい。中心市街地についての取り組みが大事だと思うが、商業経営者がどれだけ頑張っているかの不安もある。中心市街地は、地主さんや商売をやっている人たちを積極的に誘導する施策が出来るかが大事なポイント。中標津は人が集まってくる町。街なかに少しでも来られるような状況をつくり出せないか。空いている土地を花壇にするなど少しずつ進めていけばと思う。



高齢者の中に結構寂しい晩年かなという生活が見受けられる。若い人を巻き込んで人と人をつなぎ高齢者が安心して暮らせる環境をうまく提供したい。人と人とのつながりが希薄になっている。信頼関係を築き安心して暮らせる地域を町内会や行政とのコミュニケーションでつくっていくことが必要。町内会活動としては、出来るだけ横のつながりを深めていくことが大事。孤立して行く場所のない高齢者が集まれるサロンがまちなかに必要。お年寄りが自分の知識や経験を活かし力を発揮できる機会や場があって、それが小遣い稼ぎに結びついていくと地域の交流もうまくいくのでは。

～小林英嗣教授のひとこと提言～

- ・中標津は、都市と農村を一体的に考えながら独自のまちづくりの考え方を進めていくモデルになる可能性が十分にある。
- ・21世紀は、生活基盤や生産基盤に、人間の感動や安心、生命を支える基盤というものを加え、街の中、外も含めながら緑の質を意識しながら計画、プログラムを考えていくことも必要。
- ・成功しているまちを見ているとキーワードは二つ。一つは“仮設”。もう一つは中心部イコール商業ではないということ。暫定利用の仮設をうまく使った事例を集めて中心市街地を議論する工夫も必要。
- ・高齢者の安心をボランティアで支えてあげることだけでなく、それが経済効果につながりお金が回っていくという仕組みも大事。地域通貨の仕組みも中標津なら出来そう。
- ・中心部に地元の人が案内する観光案内所的なものがあれば、中心部の再生と観光と高齢の方とを組み合わせている工夫が出来そう。

4. 個性豊かで美しい風格のあるまちづくり（案）

解決課題	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学び、感じられるまち ・酪農、農業の元気なまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観や風景の美しいまち
------	--	--

5. 自律と共生のコンパクトなまちづくり（案）

解決課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と調和・共生 ・水・空気のおいしいまち ・コンパクトな都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな緑や川を守り、活かす ・ゆとりの感じられるまち
------	--	--